

神奈川県沿岸産海棲哺乳類目録

中村一恵・山口佳秀・平田寛重・浜口哲一

Kazue NAKAMURA, Yoshihide YAMAGUCHI, Hiroshige HIRATA and
Tetsuichi HAMAGUCHI: A Preliminary List of the Marine Mammals
Recorded from the Coast of Kanagawa Prefecture

はじめに

毎年のように日本の沿岸に漂着する鯨類は相当数にのぼる。漂着記録が1986年以来日本鯨類研究所によって全国的な規模で収集されるようになり、また、日本動物園水族館協会によってもそうした記録が全国的に集積され、近年、漂着海棲哺乳類に対する関心は高まっている。

神奈川県の新相模湾および東京湾沿岸に漂着する海棲哺乳類については最近までまとめられることはなかったが、上記のような背景のもとに本県における漂着海棲哺乳類についても関心がもたれ、鯨類については油壺マリンパークの山田和彦と磯貝高弘の両氏(1992)によって目録がまとめられ、6科12種が報告された。

本報告では、国立科学博物館の資料目録(MIYAZAKI, 1986)、日本鯨類研究所のストランディング・レコード、日本動物園水族館協会(日山遊園, 1991)による記録および山田・磯貝(1992)による報告を基礎に、未発表の若干の記録を加えて神奈川県の相模湾および東京湾沿岸で記録された海棲哺乳類(鯨目および鯨脚目)を目録としてまとめた。本来ならば、外房、東京湾、相模湾、駿河湾といった生物地理上意義のある区割りをすべきであるが、本報告では行政上の区割りの枠内で記録をまとめた。東京都(伊豆諸島・小笠原諸島を除く)からの記録はすべて便宜上千葉の記録に含めた。

記号のMは雄、Fは雌、Uは性不明を、その後の数値は体長を示す。記録状況のわかっているものについて、港内や河川等鯨類の本来の生息域ではない水域で記録されたものを「迷入」、生死に関わらず沿岸域で定地網などに入ったものを「混獲」、生死に関わらず海岸に打ち上がったものを「漂着」として区別した。頭数の記載のないものはすべて1頭の記録を示す。和名および学名とその配列は主として今泉(1988)に準じた。

目 録

鯨脚目 Pinnipedia

アシカ亜目 Otariioidea

アシカ科 Otariidae

キタオットセイ *Callorhinus ursinus* (LINNAEUS)
(図1)

1994. 2. 27. 藤沢市江ノ島海岸. F, 133cm. 迷入(朝日新聞94. 6. 27付による)。

江ノ島水族館に保護されたがまもなく死亡。2月19日に同一個体と思われる1頭が千葉県大原沖で目撃されている(藤本朝海氏教示による)。新聞発表では体長127cmであったが、藤本朝海氏(江ノ島水族館)のご教示により上記数値に訂正した。なお、銚子以南への本種の南下は12~5月の冬から春先にかけて起きている(中村・山口, 1987)。本例もこの範囲に含まれている。

アシカ *Zalophus californianus* (LESSON)

1879(明治12年) 5. 三浦市南下浦町松輪. 体長約126cmのメス。地引網により混獲された。この個体の彩色絵が東京国立博物館に所蔵されている(磯野, 1992; 中村, 1993)。

1884(明治17年) 4. 14. 横浜. 大英博物館頭骨標本。横浜の記録は、1884年当時、第1の記録が示すようにまだニホンアシカが東京湾に生息していたので、そこから約40kmしか離れていない横浜付近での捕獲も考えられる(伊藤・中村, 1994)。

近年の記録として、1961年3月19日、三浦市の長沢から津久井にかけての海岸に本種が出現し、一度は海岸に上陸したという報告(寺島, 1961)がある。しかしニホンアシカ(*Z.c.japonicus*)は明治30年代までは東京湾、相模湾沿岸に生息していたが、房総沿岸も含めて明治40年頃までには絶滅したと考えられる(中村, 1993)。三浦市からの記録を本種と同定できる根拠

は皆無である。

アザラシ亜目 Phocoidea

アザラシ科 Phocidae

ゴマフアザラシ *Phoca largha* PALLAS

足柄下郡真鶴町真鶴岬番場浦。M, 101.5cm。混獲
(中村・山口, 1987, Fig. 1)。

鯨 目 Cetacea

歯鯨亜目 Odontoceti

マイルカ科 Delphinidae

マダライルカ (アラリイルカ) *Stenella attenuata*
(GRAY)

1987. 10. 18. 三浦市三浦海岸。F, 190cm。迷入
(山田・磯貝, 1992, Fig. 2-3)。

1989. 4. 27. 葉山町一色海岸。F (日鯨研, 1989)。
カマイルカ *Lagenorhynchus obliquidens* GILL

1976. 3. 24. 三浦市。M, 197cm。漂着 (鴨川シー
ワールド, 1994)。

1983. 5. 4. 横須賀市久里浜。迷入 (山田・磯貝,
1992)。

1988. 5. 12. 鎌倉市七里ヶ浜。F, 212cm。迷入
(日鯨研, 1988)。

1989. 5. 8. 小田原市。M, 217cm。混獲 (日和山
遊園, 1991)。

カズハゴンドウ *Peponocephala electra* (GRAY)

1963. 8. 12. 平塚市海岸。漂着 (NAKAJIMA &
NISHIWAKI, 1965, Fig. 1)。

1994. 6. 23. 横須賀市芦名。漂着, 江ノ島水族館保
護 (神奈川新聞94. 6. 24付)。

ハナゴンドウ *Grampus griseus* (CUVIER)

1981. 11. 23. 足柄下郡真鶴町。M, 244cm。混獲
(日和山遊園, 1991)。

1992. 9. 30. 三浦市三崎城ヶ島。M, 240cm。漂
着 (山田・磯貝, 1992, Fig. 1-3)。

1994. 4. 17. 平塚市相模川河口。漂着 (宮原恒雄氏
写真による)。

コビレゴンドウ *Globicephala macrorhynchus*
GRAY (図 2)

1970. 8. 26. 横須賀市長井沖約10km相模湾。8頭
(中村・村岡健作観察・撮影)。

ネズミイルカ科 Phocoenidae

イシイルカ *Phocoenoides dalli* (TRUE)

1994. 10. 31. 横浜市神奈川区宝町沖東京湾。2頭。
迷入 (神奈川新聞94. 11. 1付。種の同定は日鯨研

による。イシイルカ型カリクゼンイルカ型は不明)。

スナメリ *Neophocaena phocaenoides* (CUVIER)

1969. 6. 15. 逗子市海岸。M, 80cm (骨格, 国立
科博標本-MIYAZAKI, 1986)。

1970. 3. 18. 横須賀市観音崎沖。8~10頭 (中村,
観察・撮影)。

1973. 6. 27. 川崎市川崎区扇島沖1km。F, 71.5cm
(骨格, 国立科博標本-MIYAZAKI, 1986)。

1982. 5. 15. 横浜市中区本牧。F, 162.5cm (骨格,
国立科博標本-MIYAZAKI, 1986)。

1983. 3. 30. 横浜市中区錦町。F, 79.7cm (頭骨・
脊椎骨, 国立科博標本-MIYAZAKI, 1986)。

1985. 11. 26. 横須賀市久里浜港。迷入 (山田・磯
貝, 1992)。

1987. 5. 31. 横須賀市横須賀港。迷入 (山田・磯貝,
1992)。

1988. 12. 14. 藤沢市鵠沼海岸1丁目沖約150m。ヘ
リコプターから目撃, 撮影 (新井一政氏)。

アカボウクジラ科 Ziphiidae

ツチクジラ *Berardius bairdii* STEJNEGER

1987. 7. 24. 三浦市諸磯。4頭。うち2頭の体長, F,
1050cm, U, 830cm。漂着 (日鯨研, 1988; 山田・磯
貝, 1992, Fig. 2-4)。

イチョウハクジラ *Mesoplodon ginkgodens* NISHI-
IWAKI & KAMIYA

1957. 9. 22. 大磯海岸。U, 約500cm。漂着
(NISHIWAKI & KAMIYA, 1958, Fig. 1)。
タイ
プ標本 (国立科博標本 -MIYAZAKI, 1986)。

1968. 8. 23. 鎌倉市材木座海岸。漂着 (NISHIWA-
KI *et al.*, 1972)

〔参考記録〕

1991. 3. 23. 三浦市三崎町小網代。F, 487cm。漂
着 (日鯨研, 1991; 山田・磯貝, 1992, Fig. 2-5)。

アカボウクジラ *Ziphius cavirostris* CUVIER

1958. 1. 28. 三浦市三崎。M。漂着 (石川氏による)。
1963. 3. 12. 藤沢市辻堂。3頭。 (石川氏による)。

1963. 5. 16. 横須賀市横須賀港。迷入 (石川氏によ
る)。

1963. 9. 22. 平塚市。M。 (石川氏による)。

1979. 11. 7. 小田原市国府津~早川海岸。13頭。漂
着 (石川氏による)。

1981. 7. 7. 茅ヶ崎市。M, 550cm (頭骨, 国立科
博標本-MIYAZAKI, 1986)。

1985. 3. 26. 小田原市。F, 550cm (頭骨, 国立科博

表 1. 油壺標本とイチョウハクジラ *M. ginkgodens* の外部計測値比較¹⁾

部 位	大磯標本 1957.9 ♂		鎌倉標本 1968.8 ♂		伊東標本 1971.7 ♂		焼津標本 ²⁾ 1989.9 ♀		油壺標本 1991.3 ♀	
体長	472.0	100%	470.0	100%	477.0	100%	478.0	100%	487.0	100%
頭部最大幅	43.0	9.1	—	—	—	—	44.3	9.2	—	—
上下吻端差	2.5	0.5	1.0	0.2	1.3	0.3	2.5	0.5	—	—
下顎先端より目の中心まで	51.0	10.8	51.0	10.9	57.4	12.0	54.4	11.4	63.0	12.9
下顎先端より呼吸孔まで	49.0	10.0	48.0	10.2	53.8	11.3	52.4	11.0	52.8	10.8
胸鰭、腋の下から先端まで	33.0	7.0	32.0	6.8	41.2	8.6	34.6	7.2	42.0	8.6
胸鰭、前の付根から先端まで	51.0	10.8	50.0	10.6	54.0	11.3	50.3	10.5	50.5	10.3
尾鰭、拡がりの幅	112.0	23.7	—	—	119.0	24.9	112.1	23.5	124.0	25.5
尾鰭外縁中央より背鰭先端まで	—	—	—	—	158.0	33.1	166.8	34.9	—	—
尾鰭外縁中央より肛門まで	—	—	—	—	139.0	29.1	127.6	26.7	—	—

1) 中島 (1990) による。

2) 焼津標本は写真に基づく算定値 (中島,1990)

表 2. 隣接県と比較された鰭脚類記録状況

科 名	種 名・学 名	千 葉	神 奈 川	静 岡
アシカ	キタオットセイ <i>Callorhinus ursinus</i>	+	+	+
	アシカ <i>Zalophus californianus</i>	+ ¹⁾	+	(+) ²⁾
	トド <i>Eumetopias jubatus</i>	—	—	+ ³⁾
アザラシ	ワモンアザラシ <i>Phoca hispida</i>	—	—	+
	ゴマフアザラシ <i>Phoca largha</i>	+	+	+
	アゴヒゲアザラシ <i>Erignathus barbatus</i>	+	—	—
		4	3	5

1) 伊藤 (1994)による。 2) 中村(1993) により推定。 3) 忍田(1980)による。

標本—MIYAZAKI, 1986)。

1987. 10. 19. 鎌倉市坂ノ下海岸。F, 440cm, 漂着(日鯨研, 1988; 日と山遊園, 1991)。

1988. 5. 6. 平塚市。漂着 (日鯨研, 1988; 日と山遊園, 1991)。

1989. 2. 21. 中郡二宮町前川海岸。F, 580cm (日鯨研, 1989; 日と山遊園, 1991)。

マッコウクジラ科 Physeteridae

コマッコウ *Kogia breviceps* (de BLAINVILLE)

1963. 8. 17. 大磯町。F。漂着 (石川氏による)。

1967. 4. 13. 平塚市。M。漂着 (石川氏による)。

1978. 8. 25. 三浦市三浦海岸。親子2頭。ad. F, 130cm。迷入。幼獣は液浸標本としてマリナーパーク水族館に保管 (日鯨研, 1991; 山田・磯貝, 1992)。

1991. 4. 24. 逗子市小坪。F, 245cm。漂着。国立科学博物館保管 (日鯨研, 1991)。

マッコウクジラ *Physeter catodon* LINNAEUS (図3)

1959. 藤沢市江ノ島。約500cm。(頭骨, 国立科博標本—MIYAZAKI, 1986)。

1991. 1. 20. 横浜市中区本牧。M, 1160cm。漂着 (日鯨研, 1991)。

表3. 隣接県と比較された鯨類記録状況

科 名	種 名・学 名	千 葉	神奈川	静 岡	
マイルカ	シワハイルカ	<i>Steno bredanensis</i>	—	—	+
	マダライルカ	<i>Stenella attenuata</i>	+	+	+
	スジイルカ	<i>Stenella coeruleoalba</i>	+	—	+
	マイルカ	<i>Delphinus delphis</i>	+	—	+
	バンドウイルカ	<i>Tursiopus truncatus</i>	+	—	+
	セミイルカ	<i>Lissodelphis borealis</i>	+ ¹⁾	—	—
	サラワクイルカ	<i>Lagenodelphis hosei</i>	+	—	—
	カマイルカ	<i>Lagenorhynchus obliquidens</i>	+	+	+
	カズハゴンドウ	<i>Peponocephala electra</i>	—	+	+
	オキゴンドウ	<i>Pseudorca crassidens</i>	+	—	+
	シャチ	<i>Orcinus orca</i>	+	—	+
	ハナゴンドウ	<i>Grampus griseus</i>	+	+	+
	コビレゴンドウ	<i>Globicephala macrorhynchus</i>	+	+	+
	ユメゴンドウ	<i>Feresa attenuata</i>	—	—	+ ²⁾
	ネズミイルカ	ネズミイルカ	<i>Phocoena phocoena</i>	+	—
イシイルカ		<i>Phocoenoides dalli</i>	—	+	+ ³⁾
スナメリ		<i>Neophocaena phocaenoides</i>	+	+	+
マッコウ	コマッコウ	<i>Kogia brevipes</i>	+	+	+
	マッコウクジラ	<i>Physeter catodon</i>	+	+	+
アカボウクジラ	ツチクジラ	<i>Berardius bairdii</i>	—	+	—
	ハッブスオウギハクジラ	<i>Mesoplodon carlhubbsi</i>	—	—	+
	コブハクジラ	<i>Mesoplodon densirostris</i>	—	—	+ ⁴⁾
	イチョウハクジラ	<i>Mesoplodon ginkgodens</i>	+	+	+
	オウギハクジラ	<i>Mesoplodon stejnegeri</i>	+	—	—
	アカボウクジラ	<i>Ziphius cavirostris</i>	+	+	+
コククジラ	コククジラ	<i>Eschrichtius robustus</i>	—	+	—
ナガスクジラ	コイワシクジラ	<i>Balaenoptera acutorostrata</i>	+	+	+
	ザトウクジラ	<i>Megaptera novaeangliae</i>	—	+	+
セミクジラ	セミクジラ	<i>Balaena glacialis</i>	—	—	+
		19	15	23	

1) 読売新聞 (1993. 5. 13付) による. 2) NISHIWAKI *et al.*, 1965による. 3) 鳥居 (1989) による.
4) 笠松・宮下(1991)による.

全身骨格標本を県教育庁博物館開設準備室で収集・保管.

1994. 4. 14. 横須賀市長井町荒崎海岸. M. 1000 cm.漂着 (石川氏による).

髯鯨亜目 Mysticeti

ナガスクジラ科 Balaenopteridae

コイワシクジラ (ミンククジラ) *Balaenoptera*

acutorostrata LACEPÈDE

1986. 4. 22. 三浦市小網代. F, 350cm. 混獲 (山田・磯貝, 1992, Fig. 2-6) .

1987. 4. 16. 三浦市金田湾. F, 450cm. 迷入 (日鯨研, 1988 ; 山田・磯貝, 1992) .

ザトウクジラ *Megaptera novaeangliae* (BOROWSKI)

1991. 6. 26. 横須賀市長井. M, 570cm. 漂着 (日鯨研, 1992; 山田・磯貝, 1992, Fig. 2-1). 6. 12に定地網で混獲された (石川氏による).

コククジラ科 Eschrichtiidae

コククジラ *Eschrichtius robustus* (LILLJEBORG)

1990. 1. 25. 小田原市国府津. 800cm. 漂着 (日鯨研, 1990; 笠松・宮下, 1991, p. 55写真). 全身骨格標本を県教育庁博物館開設準備室で収集・保存.

油壺に漂着したメソプロドンについて

1991年3月23日, 三浦市油壺小網代湾の岩礁海岸にメソプロドン雌1頭が湾内を漂っているうちに岩場にストランディングし, 死亡した (図4). 油壺マリンパークの山田和彦氏と筆者の一人, 中村が現地を調査に当たった (以下, 油壺標本と呼ぶ). 諸般の事情で標本の採集はできなかったが, 各部の写真撮影のほか, 山田氏によって外部の計測がなされた.

この個体については後日, 山田・磯貝 (1992) によりイチョウハクジラ (*M. ginkgodens*) に最も近い種と報告された. しかし油壺標本の特徴に関する詳述は山田・磯貝 (1992) にはないのでここに参考資料として記録しておきたい.

オウギハクジラ属 (*Mesoplodon*) では歯の形態と位置が種によってきわめて特徴的で, 種の同定の際の有力な根拠となる. しかしながら, そうした特徴は成熟した雄に限られ, 雌や未成熟個体については有効ではない. 油壺標本はその体長から雌の成熟個体と推定される.

日本近海からこれまで報告された種は, イチョウハクジラ *M. ginkgodens*, オウギハクジラ *M. stejnegeri*, ハップスオウギハクジラ *M. carlhubbsi*, コブハクジラ *M. densirostris*の4種である.

コブハクジラでは下顎の背縁がアーチ状に著しく隆起し, この特徴は雌にも現われる. 油壺標本の下顎の背縁もアーチ状であるが, コブハクジラほどではない (図5).

ハップスオウギハクジラの成熟した雄では, 上下顎の基部に白い斑があるのが特徴である (WATSON, 1981). しかし雌にもこのような斑があるのかどうかはわかっていないようであり, 油壺標本に関しては同定材料とするには有効ではない.

オウギハクジラの雌との区別はさらに難しいようである. ただ, この種は, WATSON (1981) によれば, 太平洋の北緯40度から60度の範囲に分布する種であり,

宮崎ら (MIYAZAKI *et al.*, 1987) によれば, 日本沿岸においても日本海中部および房総以北の北日本に漂着記録は集中している.

イチョウハクジラの体色は, 西脇 (1965) では, ミッドナイト色 (青黒灰色), WATSON (1981) では「deep marine blue」と書かれているが, 油壺標本もこれら記載体色に酷似していた. 不定形の白斑が体全体に散在し, 白斑はとくに腹側体後半部に顕著であり, その分布状態 (図5) は伊東標本 (NISHIWAKI *et al.*, 1972, pl. 1, Fig. 2.) に酷似している. また, 油壺標本の外部計測値 (表3) のプロポーシオンはイチョウハクジラにかなり近似している.

以上のような観点から, 油壺標本の特徴は, 山田・磯貝 (1991) が指摘したように, イチョウハクジラ *M. ginkgodens* に最も近いと言えよう.

相模湾近海の高棲哺乳類相について

神奈川県相模湾および東京湾沿岸で記録された高棲哺乳類の記録を千葉県と静岡県との比較で表1~2に示す. 千葉および静岡からの記録は主としてMIYAZAKI (1986) および鴨川シーワールド (1992) による.

鰭脚類のうちアシカ科については, アシカを除いてすべて寒流系種で, 稀な南下例である. アザラシ科についても同様であり, 本州以南で記録される3種はいずれも氷上繁殖種の迷入種 (NAITO, 1976) であり, 北海道に繁殖する陸岸繁殖型のゼニガタアザラシ *Phoca vitulina* の南下例はない (表1).

千葉・神奈川・静岡の沿岸域で記録された鯨類は7科29種で, このうちイルカ類は2科17種である (表2). 粕谷 (1990) によれば, イルカ類については, 発見位置とそこでの表面水温に相関があって複雑である. 記録された種のうち, イシイルカ, ネズミイルカ, セミイルカ, シャチの4種は一般に19度以下の水温域に分布し, ハナゴンドウ, オキゴンドウ, バンドウイルカ, スジイルカ, マダライルカ, サラワクイルカの6種は18度以上の水域に生息している. カマイルカ, コビレゴンドウ, スナメリの3種は水温範囲が広いのが特徴である.

このうちコビレゴンドウについては背鰭後方の白斑が目立たないタイプと, それが明瞭なタイプの2型がある. 前者は漁業者の間でマゴンドウあるいはナイサゴド, 後者はタッパナグあるいはシオゴドと呼ばれて区別されていた. 相模湾で観察されたのは前者のマゴンドウ型 (図2) であり, タッパナグ (シオゴド

ウ)より暖水域に分布する型である。

スナメリの水温範囲は広いが、本種は温・熱帯性のイルカである(粕谷, 1990)。ユメゴンドウやカズハゴンドウも熱帯から亜熱帯にかけて分布する種であり(笠松・宮下, 1991), オウギハクジラ類についても, オウギハクジラ *M.stejnegeri*を除く3種は, その水温範囲から温・熱帯性の種と考えられている(WATSON, 1981)。

以上のような観点から, イシイルカのような寒流系種の若干の波及はあるものの, 東京湾から相模湾・駿河湾にかけての水域には全体としては温・熱帯系種が卓越すると見てよいと思われる。

ま と め

1. 1950年代から1994年現在までに神奈川県のある東京湾および相模湾沿岸から記録された海棲哺乳類は, 鯨類2科3種, 鯨類は7科15種である。鯨類については山田・磯貝(1992)の目録にコビレゴンドウ, カズハゴンドウ, イシイルカの3種が追加された。

2. スナメリとアカボウクジラの記録が最も多く得られた。隣接県の記録と比較して, 鯨類のうちとくにイルカ類に数種の今後の追加があるものと考えられる。

謝 辞

日本鯨類研究所の石川創氏は原稿を丁寧に読んでいただき有意義な助言をいただいたほか, 未発表の記録を追加して下さり, 目録の充実をはかることにご尽力いただいた。京急油壺マリンパークならびに同油壺マリンパークの磯貝高弘氏は油壺に漂着した*Mesoplodon*の計測値の使用をご快諾下さった。記録をまとめるに当たり, 新井一政, 藤本朝海, 松島義章, 柴田敏隆, 鈴木真哉, 宮原恒雄, 村岡健作, 山田和彦の各氏のご協力をいただいた。文献収集にあたり日本鯨類研究所の協力をいただいた。キタオットセイの写真は朝日新聞横浜支局から提供いただいた。以上の方々ならびに関係機関に衷心より御礼申し上げる。

文 献

日と山遊園編, 1991. 海産哺乳類の漂着について. 日本動物園水族館協会水族館技術者研究会海獣部会宿題調査1990年度. 日と山遊園.
今泉吉典, 1988. 世界哺乳類と名辞典. 平凡社.
磯野直秀, 1992. 東京国立博物館蔵『博物館図譜』について. 慶応義塾大学日吉紀要自然科学,

(12): 73-87.

伊藤徹魯, 1994. ニホンアシカの復元にむけて(7).

古文献の「あしか」の同定. 海洋と生物, 16: 215-224.

伊藤徹魯・中村一恵, 1994. ニホンアシカの復元にむけて(9). ニホンアシカの分布復元. 海洋と生物, 16: 373-393.

鴨川シーワールド, 1992. 海獣類の漂着記録. 鴨川シーワールド報告1, 業績集, pp. 347-349.

笠松不二男・宮下富夫, 1991. 鯨とイルカのフィールドガイド. 東京大学出版会.

粕谷俊雄, 1990. 齒鯨類の生活史. 宮崎信之・粕谷俊雄編「海の哺乳類—その過去・現在・未来—」, pp. 80-127. サイエントリスト社.

MIYAZAKI, N. 1986. Catalogue of Marine Mammal Specimens. National Science Museum, Tokyo.

MIYAZAKI, N., I. NAKAMURA, S. TANABE & R. TATSUKAWA, 1987. A Stranding of *Mesoplodon stejnegeri* in the Maizuru Bay, Sea of Japan. *Sci. Rep. Whales Res. Inst.*, (38): 91-105.

NAITO, Y. 1976. The Occurrence of the Phocid Seals along the Coast of Japan and Possible Dispersal of Pups. *Sci. Rep. Whales Res. Inst.*, (28): 175-185.

中島将行, 1984. メソプロドン, 海に漂う. 鯨研通信, (356): 94-100.

中島将行, 1990. 焼津の定地網に入ったメソプロドン. 鯨研通信, (379): 1-4.

NAKAJIMA, M. & M. NISHIWAKI, 1965. The First Occurrence of a Porpoise (*Electra electra*) in Japan. *Sci. Rep. Whales Res. Inst.*, (19): 91-104, 7 pls.

中村一恵, 1993. 三浦半島に生息していたニホンアシカについて. 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), (22): 81-89.

中村一恵・山口佳秀, 1987. 真鶴岬で捕獲されたゴマファザラシについて. 神奈川自然誌資料, (8): 77-80.

西脇昌治, 1965. 鯨類・鯨脚類. 東京大学出版会.

NISHIWAKI, M. & T. KAMIYA, 1958. A Beaked Whale *Mesoplodon* Stranded at Oiso Beach, Japan. *Sci. Rep. Whale Res.*

- Inst.*, (13):53-83, 17 pls.
- NISHIWAKI, M. & T. KASUYA, T. KAMIYA, T. TODAYAMA & M. NAKAJIMA, 1965. *Fe-resa Attenata* Captured at the Pacific Coast of Japan in 1963. *Sci. Rep. Whale Res. Inst.*, (16): 65-90, 10 pls.
- NISHIWAKI, M., T. KASUYA, K. KUREHA & N. OGURO, 1972. Further Comments on *Mesoplodon ginkgodens*. *Sci. Rep. Whales Res. Inst.*, (24): 43-56, 10 pls.
- 日本鯨類研究所, 1988a. ストランディング・レコード9. 鯨研通信, (372): 7.
- 日本鯨類研究所, 1988b. ストランディング・レコード11. 鯨研通信, (374): 44.
- 日本鯨類研究所, 1989. ストランディング・レコード13. 鯨研通信, (376): 7-10.
- 日本鯨類研究所, 1990. ストランディング・レコード15. 鯨研通信, (379): 8-10.
- 日本鯨類研究所, 1991. ストランディング・レコード17. 鯨研通信, (381): 1718.
- 日本鯨類研究所, 1992. ストランディング・レコード18. 鯨研通信, (382): 14.
- 忍田 中, 1980. 伊豆の博物誌(2). 関東図書株式会社.
- 寺島浩一, 1961. アシカが訪れました. 自然のたより, (24):3. 三浦半島自然保護の会.
- 鳥居春巳, 1989. 静岡県産の哺乳類. 第一法規.
- WATSON, L. 1981. *Sea Guide to Whals of the World*. E. P. Duntton, New York.
- 山田和彦・磯貝高弘, 1992. 三浦半島周辺における鯨類のストランディングレコード. 京急油壺マリンパーク年報, (16): 24-28.
- (中村一恵 山口佳秀: 神奈川県立博物館; 平田寛重: 市立伊勢原小学校; 浜口哲一: 平塚市博物館)

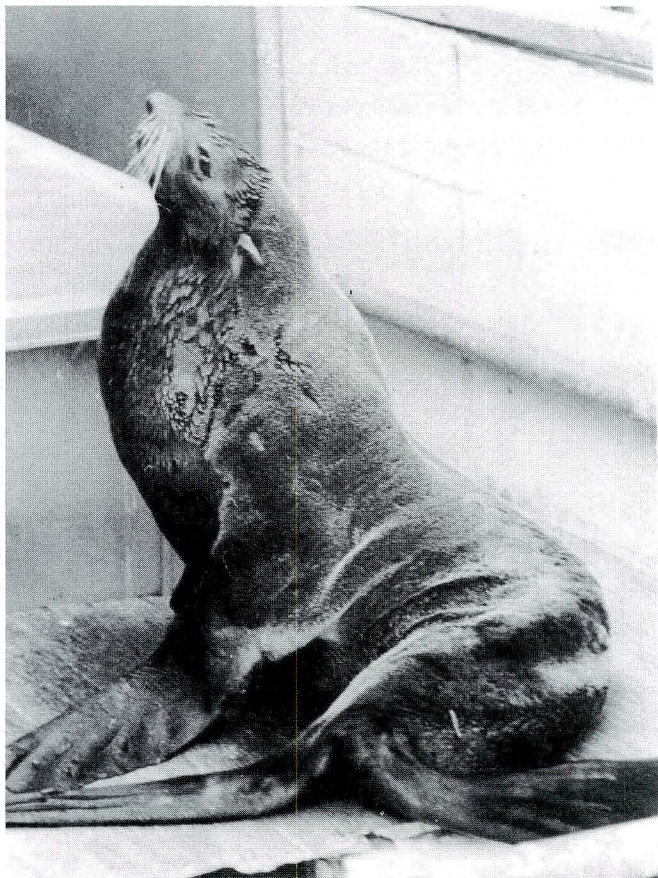


図1. キタオットセイ *Callorhinus ursinus*. 江ノ島水族館において撮影. 提供: 朝日新聞横浜支局.



図2. コピレゴンドウ (マゴンドウ型) *Globicephala macrorhynchus* の群れ. 相模湾(撮影: 村岡健作)



図3. 横浜港に漂着したマッコウクジラ *Physeter catodon* (撮影: 松島義章)



図4. 三浦半島油壺に漂着したオウギハクジラ1種 *Mesoplodon* cf. *ginkgodens* (撮影: 中村) .



図5. 同上、頭部 (撮影: 中村) .